

応募者	株式会社山陰放送
1. 活動名	BSS×SDGs～さんいんSDGs共創プロジェクト～親子で学ぼう！海と森の教室
2. 表彰の対象となる活動の目的	山陰放送による情報発信と、知の拠点である大学、SDGsに取り組む地域の様々な企業や団体が一体となることによるSDGsの取組みの推進と拡散力により、持続可能な地域づくりの実現を目指す。
3. 表彰の対象となる活動内容	<p>(表彰の対象となる活動であることを確認して、チェックしてください。)</p> <p>(① 実施期間、②対象者・参加人数、③実施場所、④活動概要などを記載してください。)</p> <p>① 海の教室 2022年11月3日 森の教室 11月5日</p> <p>② 海の教室 57名参加 森の教室 72名参加</p> <p>③ 海の教室 島根県島根町 森の教室 鳥取県伯耆町 にて実施。</p> <p>④ 海の教室 日本ではとても珍しいナチュラルシェルビーチである島根県島根町の小波海岸にて自然環境と生物の生態に触れ、実感し学ぶことで海の豊かさについて考え、行動するきっかけ作りを行った。イベントの最後には海岸清掃も行った。</p> <p>森の教室 大山の森を使った森林保全活動を通して、自然を感じながら陸の豊かさを守る大切さについて考え、行動するきっかけ作りを行った。</p> <p>運営は、共創パートナー企業と鳥取大学と島根大学の学生がサポートした。いずれの教室でもSDGsを専門とする大学教授によるSDGsの講義を実施し、頭と五感を使ってSDGsを学ぶ機会を提供した。募集対象は、鳥取県と島根県両県の方。</p>
4. 表彰の対象となる活動の自己評価	
①モデル性	<p>(6に記載の活動において、特に他の団体等の模範となるような工夫などについて記載してください。)</p> <p>SDGsの地球規模の取り組みは、1社で取り組むよりもSDGs達成への想いを同じくする企業・団体などが一緒に取り組むことにより、地域を巻き込むうねりを生み出し易いという観点からパートナー関係を築き、共創プログラムとして共に活動を行った。</p>
⑤ ネットワーク	<p>(6に記載の活動の効果を高めるために活用した、又は新たに構築したネットワーク(個人・団体とのつながり)について記載してください。)</p> <p>共創プロジェクトとして、SDGsを推進する企業と、知の拠点である大学へパートナー参加を呼びかけ、山陰合同銀行、鳥取銀行、積水ハウス山陰支店、さんびる、日本たばこ産業、鳥取大学、島根大学が取り組みに賛同。また共創プロジェクトのイベントの実施については島根県島根町の海の楽校、鳥取県の NPO 法人とっとり希望化計画 21、日野森林組合の協力を得てSDGsイベントを実施。</p>
③包摂性	<p>(6に記載の活動において、「誰一人取り残さない」の理念に則った取組であることや、多様性という視点が活動に盛り込まれていることなどについて記載してください。)</p> <p>親子向けのイベントではあったが、大人の参加も受け、学生や大人同士の参加もあった。またラジオ中継やテレビニュース、テレビ番組を使ってイベント内容を報告する事で山陰地区すべての方にSDGsの理解と個々でもできる身近な取り組みを広めようとした。</p>
④統合性	<p>(6に記載の活動において、経済・社会・環境の分野における関連課題との相互関連性・相乗効果や、統合的解決の視点について記載してください。)</p> <p>企画自体を、共創パートナーで検討し運営したことでゴール 17、「パートナーシップで目標を達成」を目指した。海と森を使った教室では、陸と海と空のつながりを理解するように努め、ゴール 13.14.15 に注力することで、地域の魅力の再発見に繋げ、ゴール 11 の押し上げも狙った。</p>
⑤継続性	<p>(6に記載の活動において、活動を継続していくために努力している点(例:財源の確保など)、及び今後の計画について記載してください。)</p> <p>パートナー企業は、財源の提供と運営のサポートを行い、大学はSDGsに関する情報の提供、イベント内での授業の開催、運営のサポートを行った。BSS は情報発信と財源の提供、イベントの運営、広報を担った。またそれぞれのパートナー企業がそれぞれの企業が行っている SDGsの取り組みを紹介し合い、参考にし合うとともに、共創できる活動案を共同で考え今後も実行に移していく予定。また、今回の活動の問題点をパートナー間で検証すると共に、一般の参加者からのアンケート結果を参考にして、幅広い視点から活動を見直し、次回の活動の運営に生かしていく予定。</p>
<p>その他、6に記載の活動又は運営主体の特徴、取組のPR等を記載してください。</p> <p>PR に関しては、BSS のTVCM,RADIOCM、Twitter、FB、公式インスタグラム、アナウンサーインスタグラム、アプリを使用した。パートナー企業は、自社の窓口のデジタルサイネージや社内へポスター掲載、伯耆町内の小・中学校へチラシを配布、とっとり SDGsパートナーへの情報の投げ込み、米子市内の一部の小学校にてチラシ掲載、米子市内の企業へのポスター配布、米子市児童館でのチラシ配布、島根県松江市の一部の小学校にてチラシ配布。当社の設定した SDGsWEEK (10/31-11/6)に併せて自社と参加企業の取り組みをラジオやテレビで紹介する事で共創社の SDGsの取組の浸透を図った。イベント後には、テレビ番組、ラジオ番組でイベントの様を取り上げ、取組の広い浸透を狙った。</p>	